



ディスカバー 農山漁村の宝 AWARD

第9回選定事例集

DISCOVER MURANO TAKARA AWARD

農山漁村で生きる、
農山漁村が活きる。



お問い合わせ先 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

tel 03-3502-5946 (直通)

「ディスカバー農山漁村の宝」ホームページ

[URL] <https://www.discovermuranotakara.com>



事例に関するお問い合わせや本事例集に関する御意見等がございましたら、上記又は
お近くの地方農政局（北海道からは上記、沖縄県は沖縄総合事務局）まで御連絡ください。
本冊子は、農林水産省農山漁村振興交付金を活用し株式会社ブランドウ・ジャパンが作成しています。



「ディスカバー農山漁村の宝」の概要

趣旨

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

有識者懇談会委員 (五十音順、敬称略)



あん・まくだなるど
上智大学大学院教授
慶應義塾大学特任教授



今村 司
(株)読売巨人軍
代表取締役社長



織作 峰子
大阪芸術大学教授
写真家



田中 里沙
事業構想大学院大学学長
(株)宣伝会議取締役



永島 敏行
俳優
(有)青空市場代表取締役



林 良博
(有識者懇談会座長)
国立科学博物館顧問
東京大学名誉教授



藤井 大介
(株)大田原ツーリズム
代表取締役社長
(株)ファーム・アンド・
ファーム・カンパニー
代表取締役社長



三國 清三
オテル・ドゥ・ミクニ
オーナーシェフ



向笠 千恵子
フードジャーナリスト
食文化研究者
郷土料理伝承学校校長



横石 知二
(株)いろどり
代表取締役社長

ロゴマーク



農村をイメージした「稲穂」と漁村をイメージした「海・波」、農山村をイメージした「山」をモチーフにしたデザイン。

【制作者：濱中 幸子 氏 (グラフィックデザイナー)】

対象となる取組

- ◆ 美しく伝統ある農山漁村の次世代への継承
- ◆ 幅広い分野・地域との連携による農林水産業や農山漁村の再生
- ◆ 国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現

「ディスカバー農山漁村の宝」 グランプリ、優秀賞及び特別賞について

平成26年(第1回選定)からスタートした「ディスカバー農山漁村の宝」は、第9回選定として、令和4年6月16日から2か月間公募し、合計616件の応募の中から37地区(33団体と4名)を選定しました。

また、選定された37地区の中からさらにグランプリ、優秀賞(「ビジネス・イノベーション部門」2団体、「コミュニティ・産地地消部門」2団体、「個人部門」1名)及び特別賞(9団体及び1名)を決定しました。



株式会社 沖縄UKAMI養蚕

沖縄県
今帰仁村

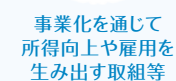
エリ蚕(さん)というガから生産された沖縄シルクをスキンケア商品に加工しブランド化、海外にも進出。廃校(養蚕)や荒廃農地(飼料生産)の利用、高齢者雇用(施設整備)、農福連携(加工)など、地域の資源と人材を活用。



伊根浦地区農泊推進地区協議会

京都府
伊根町

「泊食分離」を進めることで地域内に230ある舟屋を活用した宿泊施設の開業を促進。行政・酒蔵・水産関係者・交通事業者・金融機関などの連携による、地域一体での体験型農泊を推進。



株式会社 四万十ドラマ

高知県
四万十町

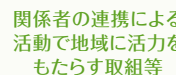
「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトに6次産業化をすすめる。さつまいも栽培、商品開発、販路開拓など地域の事業者などと連携した「地域商社」として運営。



オホーツク農山漁村活用体験型 ツーリズム推進協議会

北海道
網走市

交流拠点を網走湖畔に開設し、バス会社、料理人、生産者が連携して農漁業体験や飲食が楽しめるバスを運行。異業種間の連携を強化するとともに、地域住民をガイドとして育成することで地域の雇用を創出。



瀬戸内かきがらアグリ推進協議会

岡山県
岡山市

処理が課題となるカキの殻を加工、粉砕して、農産物の生産や鶏の飼育に活用。漁業と農畜産業をつなげ資源循環をはかり、カキの殻を活用した「里海米」、「里海卵」として販売。



大石 亘太

島根県
奥出雲町

山を牧場として省力的に管理し、多目的利用可能に整備、小頭数飼育を行い、生じる堆肥を山に還元。バター作り体験などの観光メニューを提供し、牧場を開放して地域の保育園・幼稚園・小学校を受け入れる。

地域でリーダー的な活躍をしている者等



てんめいかんきょうほぜんたい 天明環境保全隊

熊本県
熊本市

福祉事業所の利用者を含む隊員たちで、地域の農村環境保全活動、文化体験を実施。小中学校で出前講座や生き物調査を実施するほか、しめ縄・かかし作りなど伝統文化の普及活動を実施。



かぶしきかいしゃ 株式会社 リブル

徳島県
海陽町

IT 活用によりカキ養殖技術のスマート化を図り、全国へ養殖技術支援・種苗出荷などを展開。

スマート水産業への理解醸成に向け、小学校などを対象に出前授業や漁場案内などを実施。



いなぐら たなだほぜんいんかい 稲倉の棚田保全委員会

長野県
上田市

棚田の保全・多面的機能の向上を目指し、五穀豊穡祈念行事や小中学生の農業体験、棚田キャンプなどを実施。

「棚田オーナー制度」「酒米オーナー」を導入。令和4年度農林水産祭(むらづくり部門)天皇杯受賞。



いなざくほんてん 稲作本店

栃木県
那須町

農家として米を栽培するだけにとどまらず加工業を営み、米粉ワッフルやポン菓子などを製造・販売。

また、「田んぼカフェ」や「田んぼでキャンプ」を開催し、田んぼの魅力を発信しながらビジネス展開。



えぬびーおーほうじん えーち こつ まりさとやまきょうどうきこう NPO法人越後妻有里山協働機構

新潟県
十日町市

地元の女子サッカー選手など多様な人材による棚田保全、アートを活用した地域活性化。スマート農業を導入しつつ、棚田オーナー制度による都市と農村の交流の機会創出。



えぬびーおーほうじん ばんくあっぷ NPO法人 bankup

鳥取県
鳥取市

平成14年から大学生ボランティアを農村へ派遣し20年。現在は107名が参加。交流企画や特産品の加工販売、米の生産販売により「食と農林漁業大学生アワード」にて大臣賞受賞。



いっばんごいだんほうじん 一般財団法人 おか 丘のまちびえい活性化協会

北海道
美瑛町

農家の代わりとなって畑の大切さを参加者に伝えるガイドを養成し、農業体験プログラムを実施。

景観と食とを結びつけ、農泊事業を通じて生産者と観光の一体化を図った。



こうちしょうぎょうこうとうがっこう 高知商業高等学校 しょうひんかいほつほんばいそくしんぶ ジビエ商品開発・販売促進部

高知県
高知市

地元のジビエを原料に商品開発を行い販路開拓。市役所のレストランでも販売を実施。クラウドファンディングによって森林保護活動の資金を調達(返礼品もジビエ)し、植樹や獣害防護ネット敷設を実施。



たかぎ みきお 高木 幹夫

愛知県
大府市

40年以上、一般の種苗会社が扱わない「あいちの伝統野菜」を栽培・播種、イベントなどを通じて普及活動を実施。

県認定の野菜は21品目35品種。小学生向け教本を作成し、学校へ無償で配布。



かぶしきかいしゃ 株式会社 やまもとファームみらい野

宮城県
山元町

東日本大震災による津波被害を受けた後、農家と協力し営農組合を設立し、復興再生にトマトを出荷、さつまいもを輸出。

被災農家などを雇用した「地域参加型」でICT環境制御システムを活用した水耕栽培を実施。

受賞体系



《優秀賞》

ビジネス・イノベーション部門
所得向上や雇用を生み出す取組等
団体向け

《優秀賞》

コミュニティ・地産地消部門
地域活動による活性化の取組等
団体向け

《優秀賞》

個人部門
リーダー的な活躍をしている者等
個人向け

《特別賞》

特長の際立つ取組の認知度をさらに向上させるため、選定された地区の中から、特別賞を選定

選定証授与式・交流会

「ディスカバー農山漁村の宝」第9回選定関係者は、令和4年12月19日に総理大臣官邸において、選定証を受領し、岸田内閣総理大臣、松野内閣官房長官、野村農林水産大臣、自見内閣府大臣政務官等から直接の激励を受けるとともに、関係者同士の交流を行いました。



内閣総理大臣、内閣官房長官、農林水産大臣、内閣府大臣政務官等と受賞者で記念撮影



テーブルごとに岸田内閣総理大臣と記念撮影



テーブルごとに野村農林水産大臣と歓談



松野内閣官房長官、木原内閣官房副長官、磯崎内閣官房副長官と交流



野村農林水産大臣から優秀賞受賞者へ盾の授与



林座長、野村農林水産大臣、自見内閣府大臣政務官等と記念撮影



岸田内閣総理大臣から祝辞



野村農林水産大臣から祝辞



自見内閣府大臣政務官から祝辞



受賞者からの取組説明を聴く岸田内閣総理大臣



岸田内閣総理大臣との記念撮影も交えた歓談



岸田内閣総理大臣とグランプリ受賞者の記念撮影

「ディスカバー農山漁村の宝」(第9回選定)

選定地区一覧

29 徳島県 海陽町

【特別賞】

株式会社 リブル

30 香川県 三木町

株式会社 山南営農組合

31 高知県 高知市

【特別賞】

高知商業高等学校
ジビエ商品開発・販売促進部

32 高知県 四万十町

【優秀賞 ビジネス・イノベーション部門】

株式会社 四万十ドラマ

33 熊本県 熊本市

【特別賞】

天明環境保全隊

34 熊本県 小国町

社会福祉法人
小国町社会福祉協議会

35 鹿児島県 南九州市

瀬川 知香

36 鹿児島県 龍郷町

一般社団法人 E'more 秋名

37 沖縄県 今帰仁村

【グランプリ】

株式会社 沖縄UKAMI養蚕

20 京都府 伊根町

【優秀賞 ビジネス・イノベーション部門】

伊根浦地区農泊推進地区協議会

21 兵庫県 三木市

東播用水土地改良区

22 和歌山県 有田川町

有田川町×龍谷大学

23 鳥取県 鳥取市

【特別賞】

NPO法人 bankup

24 鳥根県 奥出雲町

【優秀賞 個人部門】

大石 亘太

25 岡山県 岡山市

【優秀賞 コミュニティ・地産地消部門】

瀬戸内かきからアグリ推進協議会

26 岡山県 久米南町

上粉みろく農場協議会

27 広島県 三次市

川西自治連合会

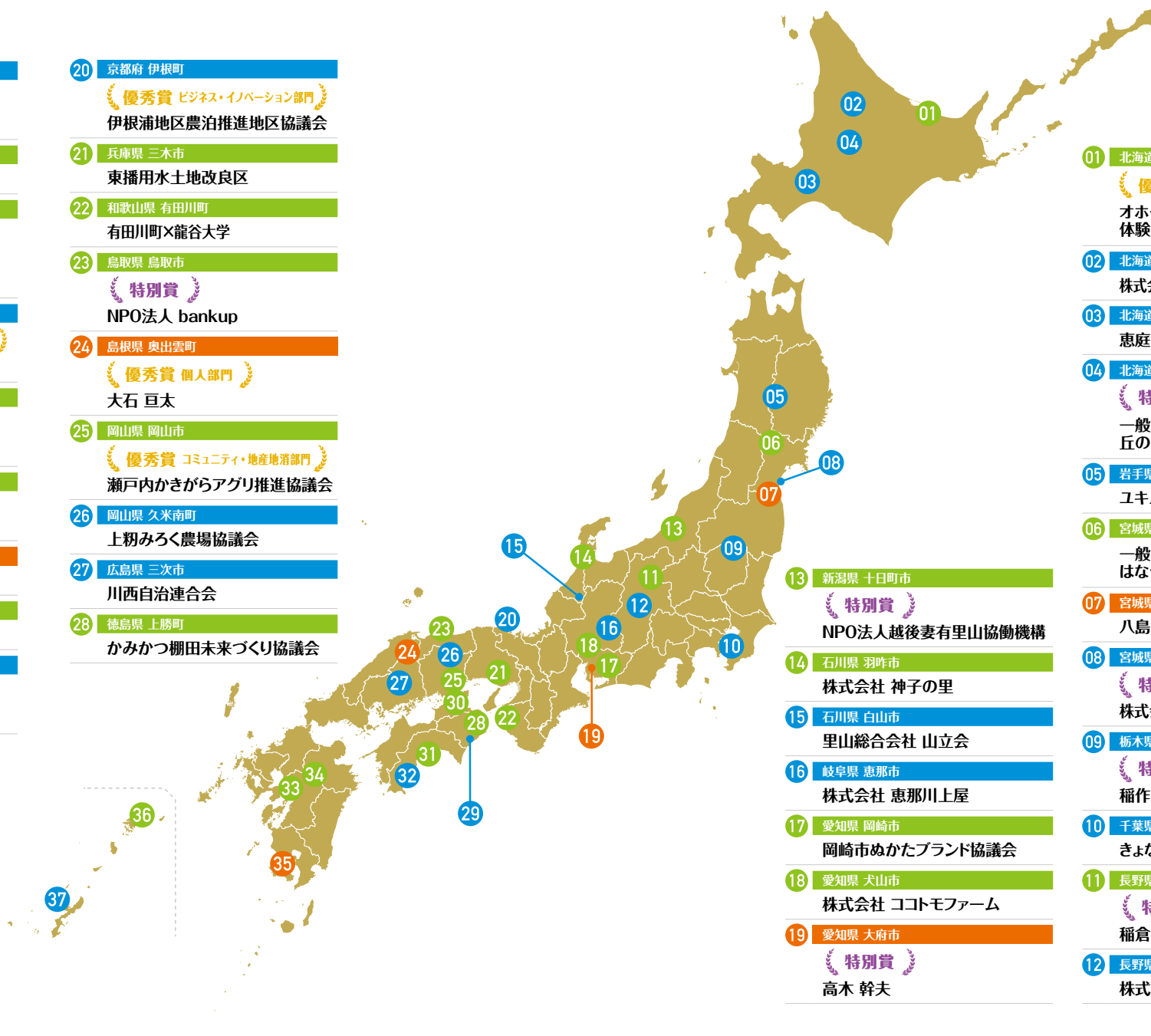
28 徳島県 上勝町

かみかつ棚田未来づくり協議会

「ビジネス・イノベーション部門」選定団体

「コミュニティ・地産地消部門」選定団体

「個人部門」選定者



01 北海道 網走市

【優秀賞 コミュニティ・地産地消部門】

オホーツク農山漁村活用
体験型ツーリズム推進協議会

02 北海道 士別市

株式会社 イナゾーフーム

03 北海道 恵庭市

恵庭かのな協同組合

04 北海道 美瑛町

【特別賞】

一般財団法人
丘のまぢびえい活性化協会

05 岩手県 西和賀町

ユキノチカラプロジェクト協議会

06 宮城県 栗原市

一般社団法人
はなやまネットワーク

07 宮城県 丸森町

八島 哲郎

08 宮城県 山元町

【特別賞】

株式会社 やまもとファームみらい野

09 栃木県 那須町

【特別賞】

稲作本店

10 千葉県 鋸南町

きよなん株式会社

11 長野県 上田市

【特別賞】

稲倉の棚田保全委員会

12 長野県 伊那市

株式会社 Wakka Agri

13 新潟県 十日町市

【特別賞】

NPO法人越後妻有里山協働機構

14 石川県 羽咋市

株式会社 神子の里

15 石川県 白山市

里山総合会社 山立会

16 岐阜県 恵那市

株式会社 恵那川上屋

17 愛知県 岡崎市

岡崎市めかたブランド協議会

18 愛知県 犬山市

株式会社 コトモファーム

19 愛知県 大府市

【特別賞】

高木 幹夫



のうさんぎょそんかつよう

オホーツク農山漁村活用

たいげんがた すいしんぎょうぎかい

体験型ツーリズム推進協議会

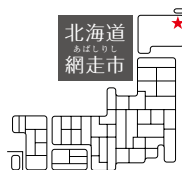


ガイド講習会により育成されたガイドメンバー

コミュニティ・地産地消部門

農業・水産業

農泊

〒099-2421 北海道網走市
字呼人 812-2 Connectrip

tel 050-1099-3708

fax 050-1099-3708

mail info@connectrip-okhotsk.com



国定公園内網走湖の自然とカヤック体験



市内小学校総合学習 コンバイン見学



- ◆ 交流拠点「Connectrip (コネクトリップ)」を国定公園内の湖畔に開設。地元のバス会社や料理人、生産者等と連携し、農漁業体験や景観、地元の食材の料理が一度に楽しめるレストランバスを運行するなど、異業種間の連携強化の後押し。
- ◆ ガイド育成講座を地域住民を主な対象として開催することで、地域産業を発信できる兼業ガイドを育成し、地域の雇用を創出。



- ◆ 平成 29 年度に始まった地域産業ガイドは、令和 3 年度時点で 26 人まで増加。
- ◆ 「Connectrip」で提供している体験コンテンツの参加者数が、120 人 (平成 30 年度) から 898 人 (令和 3 年度) に増加。地域の基幹産業である農漁業を通じた体験型のアイデンティティ教育を実施。

詳細は団体の HP から →



かぶしきかいしゃ

株式会社 イナゾーフาร์ม

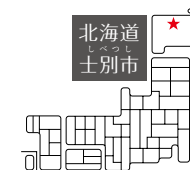


農作物から加工品まで一気通貫ブランド戦略

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

若者の活躍

〒098-0475 北海道士別市
多寄町 38 線西 9 番地

tel 0165-26-2031

fax 0165-26-2867

mail info@inazofarm.jp



有機イナゾートマトのパッケージデザイン



インターンの学生と一緒に都内マルシェに出店



- ◆ 唯一無二の商品を作るという気概で平成 24 年より 6 次産業化に取り組み、トマトジュースの製造を開始。「イナゾートマト」のネーミングで農家発ブランド商品として自ら販路開拓。
- ◆ 10 年以上にわたり、毎年 10 人程の大学生を中心に、若者が農業・農村での暮らしに触れる体験機会 (農業インターンシップ) を提供。



- ◆ イナゾートマト及びその加工品の売上は、約 1,700 万円 (平成 29 年度) から約 3,600 万円 (令和 3 年度) と 2 倍強に増加。
- ◆ 有機 JAS 認証を取得、トマトのエキスを集めた黄金色の新商品「有機トマトジュース クリア」は、品質と新規性・独創性・話題性から複数の賞を受賞。

詳細は団体の HP から →



えにわ きょうどうくみあい
恵庭かのな協同組合

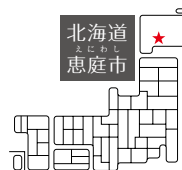


農畜産直売所「かのな」店内

ビジネス・イノベーション部門

地産地消

デジタル化



〒061-1375 北海道恵庭市
 南島松 817 番地 18
 (道の駅:花ロードえにわ)
 tel 0123-36-2700



今朝もぎトウモロコシ



花のまち えにわの切り花

概要

- ◆ 販売状況をリアルタイムで生産者に発信する欠品防止システムを導入し、顧客の満足度向上や農業者同士の連携を強化。
- ◆ 地産産にこだわる直売所として、農商工連携による商品開発や地域イベントでの販売・PR、また、保育園への食材提供等の行政と連携した食育推進活動を実施。

成果

- ◆ 直売所の来客数は、初年度の約 9 万人(平成 19 年度)から約 35 万人(令和 3 年度)に増加。令和 2 年度からは通年営業が可能になり、年間を通じて地域に地元産の食材を提供。
- ◆ 生産者と消費者の交流に取り組み、地元農畜産物の消費拡大と農家経営の安定を図り、地域経済の活性化に貢献。



詳細は団体の HP から

いっばんざいだんほうじん

一般財団法人

おか かつせいかぎょうかい
丘のまちびえい活性化協会

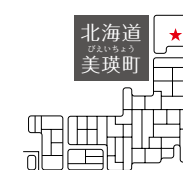


映画のワンシーンのような麦畑での麦刈り体験

ビジネス・イノベーション部門

農泊

農村環境・景観保全



〒071-0208 北海道上川郡
 美瑛町本町 1-2-14
 tel 0166-74-5757
 fax 0166-92-3234
 mail dmo@biei-act.jp



パッチワークの丘を歩くフットパス



じゃがいも掘り体験(カラフルじゃがいもの宝さがし)

概要

- ◆ 農家に代わって畑の大切さを伝えるガイド(インタープリテーションガイド)の案内で、生産農家の畑をリアルに体感できる各種プログラムを実施。
- ◆ 景観と農と食を結びつける本物体験型プログラムを展開。観光マナー問題の解決に向け、農泊事業を通じ生産者と一体となって実施。

成果

- ◆ 体験プログラムの申込件数は 72 件(平成 30 年度)から 416 件(令和 3 年度)と、コロナ禍でも着実に増加。
- ◆ 農家に代わって畑の大切さを伝えるため養成したインタープリテーション認定ガイド数は、2 人(平成 30 年度)から 10 人(令和 3 年度)に増加。



詳細は団体の HP から

ユキノチカラプロジェクト

ぎょうぎかい

協議会

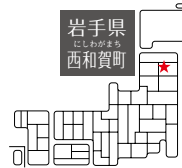


ユキノチカラブランド商品群

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

関係人口の創出

〒029-5512 岩手県和賀郡
西和賀町 川尻 40-73-11

tel 0197-82-2211

fax 0197-82-2203

mail info@yukino-chikara.com



雪文化を体験する「ユキノチカラツアー」



地元高校と協働した社会学習「魅力発見ラボ」



- ◆ 役場、信金、事業者、デザイナー等が連携し、デザインの中で「魅力」を発信。プライベートブランドの開発商品数は30種類以上。
- ◆ 町内産食材を使った加工品等を地域全体での販促営業により地域ブランド化。2021ふるさと名品オブ・ザ・イヤー地方創生大賞受賞。



- ◆ 「豪雪」をデザインの力で「魅力」へ変えるという新たなコンセプトは、地域ブランドとして応援・共感するファンの増加に貢献。
- ◆ イベント開催・出展等の販促活動、メディアを活用したPRにより、町内事業者の売上増加と販路開拓に寄与。ツアーや雪の販売など、地域の話題作りと交流人口の創出にも貢献。

詳細は団体のHPから →



いっばんしゃだんほうじん

一般社団法人

はなやまネットワーク

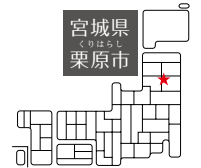


移住体験で伝統食を囲み交流

コミュニティ・地産地消部門

農村文化体験

移住・定住

〒987-2511 宮城県栗原市
花山字本沢北ノ前 133 番地

tel 0228-43-5111

fax 0228-24-7883

mail furusato@piano.ocn.ne.jp



移動販売車で買い物支援



空き家片付け隊



- ◆ 高齢者の生活支援のため、地元商店と契約して移動販売を実施。
- ◆ 地域おこし協力隊や地域内の女性を中心となり、地域の農業体験・伝統文化の紹介を行う「かがやく女性たちと過ごす花山いなか時間プログラム」を平成29年から毎年実施し、関係人口の増加と移住促進に貢献。



- ◆ 移住者数が、10人（平成29年度）から26人（令和3年度）に増加。
- ◆ 高齢者の買い物環境の維持と地元商店の存続支援のため実施した移動販売による買い物支援が、高齢者の安否確認の一部につながり地域貢献。

詳細は団体のHPから →

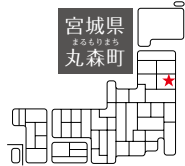


八島 哲郎



オクトパス君で人気の法人とファンの交流会開催

- 個人部門
- 地産地消
- 関係人口の創出
- 6次産業化



〒981-2303 宮城県伊具郡丸森町耕野字沼 62-1
(いなか道の駅やしまや)
tel 0224-75-2111
fax 0224-75-2569



店の隣は手入れした竹林、2階は干柿の干場



美味しいたけのこをいつでも食卓へ

概要

- ◆ 約130年続く食品・生活雑貨店の経営を原点とし、ミ二道の駅をコンセプトに「いなか道の駅やしまや」を運営。出張販売を行い地区内の買い物困窮者を支援。
- ◆ 干し柿(こほり柿)をビターチョコでコーティングした「あなたのハートをいちごチョコ」を開発・販売。キャラクター「オクトパス君」との連携によるPR活動等も実施。

成果

- ◆ 直売所の売上が約1,400万円(平成29年度)から約1,900万円(令和3年度)に増加。来客数は約2.7万人(平成29年度)から約3万人(令和3年度)に増加。
- ◆ たけのこ掘り・干柿作り体験の受入など、他地域と連携しながら多様なチャンネルを活用し地域全体の交流を促進。



詳細は団体のHPから

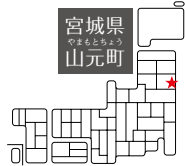
株式会社

やまもとファームみらい野



紅はるかどシルクスweetを丸干しと平干しで4種製造

- ビジネス・イノベーション部門
- 復興
- 6次産業化
- 輸出



〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字北中須賀 3番地
tel 0223-23-1218
fax 0223-23-1219
mail yf-miraino@ck2.so-net.ne.jp



機械管理で、甘み強い大玉とまとを安定出荷



干し芋加工は手作業

概要

- ◆ 耕地面積の約8割が津波被害を受けた山元町で、地域農家と協力し営農組合を設立。平成29年5月に「復興創生とまと」として初出荷し、令和3年からはさつまいもの輸出を開始。
- ◆ 被災した地域住民の生活を支え続けるため、ICTによる環境制御システムを活用した水耕栽培を実施。ほ場別、品種別、作型別に毎日の作業データを蓄積し、毎週の定例会でデータを共有。

成果

- ◆ 売上は約2.1億円(平成29年度)から約3.7億円(令和3年度)に増加。
- ◆ 事業拡大に伴い90名の雇用を創出。被災後のさつまいも農地の作付面積は12ha(平成29年度)から17ha(令和3年度)に増加。また、令和3年度のさつまいも輸出量は45tを実現。



詳細は団体のHPから



稲作本店

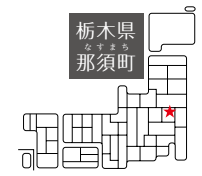


田んぼでカフェの様子

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消



〒329-3215 栃木県那須郡
那須町寺子乙 1593
tel 0287-73-8363



代表者夫婦、稲穂の田んぼで



田んぼでキャンプ

概要

- ◆ 「田んぼの価値最大化」を目指すとともに、「お米農家」から「お米専門ブランド」としての定着に向けた活動を実施。
- ◆ クラウドファンディングを活用し「田んぼでカフェ」の開催や米粉ワッフル・ポン菓子「イナボン」などの製造・販売を実施。田んぼの魅力を発信しながらビジネスとして成長。

成果

- ◆ 米の直販数は3t（平成30年度）から30t（令和3年度）に増加。インターネット販売・卸販売・直販により、グループ全体の売上は2,500万円（平成30年度）から約4,000万円（令和3年度）に増加。
- ◆ 秋の収穫後の田んぼをキャンプに活用するなど、誰でも田んぼにアクセスできる仕組みをサービスとして展開。

詳細は団体のHPから



きよなん 株式会社

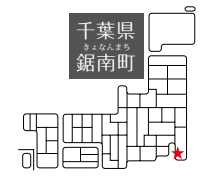


鋸山の伏流水、地元農産物で醸造

ビジネス・イノベーション部門

雇用

地産地消



〒299-1902 千葉県安房郡
鋸南町吉浜 517-1 道の駅
きよなん観光物産センター内
tel 0470-29-5454
mail info@kyonanbeer.com



桜剪定枝を活用した加工品



地域連携の「つなぎ役」として活躍

概要

- ◆ 地元農家から仕入れる副原料でクラフトビールを開発。ラベルに仕入れ先の農家の名前を記して、観光・宿泊・飲食店等に販売。
- ◆ 地域内経済循環と地域雇用を促進し、次世代につながる新たな家業として、農商工をつなぐ「地域クラフト製造業」を立上げ。

成果

- ◆ インターネット販売・店頭・広域販売を強化し、クラフトビールの売上が約400万円（平成29年度）から約2,200万円（令和3年度）に増加。
- ◆ コロナ禍で事業を再構築しつつ、農商工を「つなぐ」役割として貢献。今後も廃棄する桜剪定枝や規格外農産品物等の活用を拡大。

詳細は団体のHPから





いなぐら たなだ
稲倉の棚田
ほぜん いいんかい
保全委員会



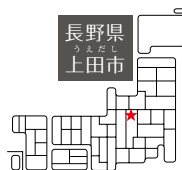
秋のたんぼでキャンプ風景

コミュニティ・地産地消部門

農村文化体験

棚田保全

農村環境・景観保全

〒386-0004 長野県上田市
殿城 2889-1

tel 0268-75-4808

fax 0268-75-4807

mail info@inaguranotanada.com



黄金色の棚田 むのりの秋



棚田オーナーとの春のお田植えまつり



- ◆ 平成 15 年に周辺の自治会や市、JA と連携して設立。棚田の保全・多面的機能向上のため、五穀豊穰等祈念に松明を持って歩く「ししおどし」の開催・小中学生の農業体験受入など多種多様な取組を実施。
- ◆ 「棚田オーナー制度」導入のほか、地元酒造会社と連携した「酒米オーナー」など消費者ニーズに合わせたコースを展開。



- ◆ 農閑期の棚田を有効活用した「棚田キャンプ」を平成 29 年から継続的に開催し、棚田の景観・地形等を生かした体験・交流の機会を創出。
- ◆ 棚田米オーナー等の総数は 70 組（平成 29 年度）から 96 組（令和 3 年度）に増加。



詳細は団体の HP から →

かぶしきがいしゃ
株式会社
わっか あぐり
Wakka Agri



棚田における荒廃農地を再生、集落の人達と田植えを実施

ビジネス・イノベーション部門

輸出

棚田保全

雇用

〒396-0404 長野県伊那市
長谷中尾 259-1

mail hosoya@ricefarm.jp



地元住民の正社員化などの雇用の創出を実現



再生した古民家で様々なイベントを企画



- ◆ 「海外コマ市場へのマーケットイン」を軸とした荒廃農地の再生と無農薬米の生産。
- ◆ 荒廃農地の増加・担い手不足といった農山漁村の課題に対し、輸出市場開拓により解を見いだす取組を実施。



- ◆ 海外市場に目を向け、香港・シンガポール・台湾・ハワイ・ニューヨークで PR 活動を実施し、令和 3 年度は 15t の輸出を達成。
- ◆ 荒廃農地の再生面積は 1ha（平成 29 年度）から 10ha（令和 3 年度）に増加するとともに、他地域への横展開に必要な再生技術のノウハウを蓄積。



詳細は団体の HP から →



えぬびーおーほうじん

NPO 法人

えちごつまりさとやまきょうどうきこう
越後妻有里山協働機構

地元の方に指導してもらい田植えをする

コミュニティ・地産地消部門

農村環境・景観保全

スポーツとの連携

デジタル化

〒942-1526 新潟県十日町市
松代 3743-1 まつだい「農舞台」内
tel 025-595-6180

ドローンを利用した農業散布



稲刈りイベント参加者との記念撮影



- ◆ 新たなライフスタイルの提案、女子サッカー選手など多様な人材による棚田保全、アートによる地域活性化に寄与。
- ◆ ドローン、水位センサー等のスマート農業の導入により作業負担の軽減。棚田オーナー制度で都市部と地元住民の交流の機会を展開。



- ◆ 全国リーグを目指す女子サッカーチーム「FC 越後妻有」をつくり、女子サッカー選手が農業の担い手となる一方で、サッカー教室や講演を実施し多数のメディアに掲載され活性化に寄与。
- ◆ 会員口数は774口（平成29年度）から919口（令和3年度）に増加。



詳細は団体のHPから →

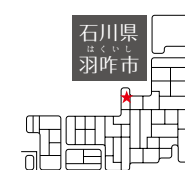
かぶしきがいしゃ みこさと
株式会社 神子の里

神子原米のブランディング（清酒・味噌・酢等）

コミュニティ・地産地消部門

6次産業化

農村環境・景観保全

〒925-0608 石川県羽咋市
神子原町は190番地
tel 0767-26-3580
fax 0767-26-3581
mail mikonosato@gmail.com

やりがいにつながる産直機能と賑わい



見守り・配達・配食「神子デリ」の冷蔵配送車



- ◆ 地域の特産品に付加価値をつける自社商品の開発や、山間部の農地を守るため、法人として営農も実施。
- ◆ 離農が進む中山間地域において棚田を守る取組として、「神子原米」のブランド化を進め、ローマ教皇への献上などにより認知度が向上。



- ◆ 特産品販売額は約6,700万円（平成29年度）から約7,600万円（令和3年度）に増加。
- ◆ 令和3年度より地域内の宅配サービス「神子デリ」を開始し、地域における暮らしの支援として、徐々に販路を拡大。

さとやまそうごうがいしゃ やまだちかい

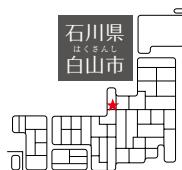
里山総合会社 山立会



ビジネス・イノベーション部門

農業

ジビエ

〒920-2326 石川県白山市
木滑西1番地

tel 076-255-5579

mail inf@yamadachi.com

特大サイズの“だけえなめこ”が自慢



荒廃農地での放牧飼育 羊ふれあい体験も



ジビエのクラウドファンディングに挑戦



- ◆ ビジネスの力で里山を活性化するために、里山における多角経営と、視察研修等による情報発信を実施。
- ◆ 菌床なめこ生産を中心に、ジビエ販売、羊の飼育・販売、食堂など多角経営によって経営力を強化。



- ◆ 羊の新ブランド肉の開発につながったほか、羊放牧やジビエ普及による里山の景観・環境保全にも貢献。
- ◆ 経営基盤となっているなめこの売上は、約90万円(平成30年度)から事業承継を経て約3,600万円(令和3年度)に増加。



詳細は団体のHPから ➡

かぶしきがいしゃ えなかわかみや

株式会社 恵那川上屋



ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消

〒509-7201 岐阜県恵那市
大井町2632-105

tel 0573-25-2470

fax 0573-25-6583

mail kenichi.kiyomi@
enakawakamiya.co.jp

トマト栽培ハウス内観



恵那川上屋の売場



おかしなトマト関連商品



- ◆ 栗の農閑期栽培の高付加価値トマトと、栗・野菜の残渣を活用した商品開発で地域・農家が儲かる仕組みを構築。
- ◆ 菓子屋ならではの取組として「お菓子の代わりに食べられる」、「素材の甘さだけでそのまま菓子として使える」をコンセプトとして甘さのみを追求したフルティカトマトの栽培を開始。



- ◆ お菓子の代わりのおやつとしてのトマトの購入者が増え、直売所は毎日朝から行列の状態となり地域の自慢作りと活性化に貢献。60歳以上の近隣住民を中心に新たな雇用を創出。
- ◆ 更なる野菜残渣を活用した商品を開発中。



詳細は団体のHPから ➡

おかざきし
岡崎市ぬかたブランド
きょうぎかい
協議会



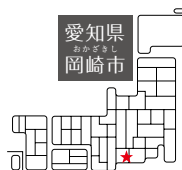
おかざきかき氷街道出店者のひとつ、農業大学校との連携

コミュニティ・地産地消部門

6次産業化

農泊

棚田保全



〒444-8601 愛知県岡崎市
十王町二丁目9番地 (岡崎市
経済振興部中山間政策課内)

tel 0564-23-6206

fax 0564-23-8970



ぬかたブランドをPR



千王町棚田を核とした地域振興活動

概要

- ◆ 平成30年に地元の商工会、森林組合、大学、市やJA等で協議会を設立。地元の農産物と名水を使用したかき氷、特産の鮎、棚田といった地域資源ごとに部会を設けて磨き上げ、観光コンテンツとしても提供。
- ◆ 地域の農林水産物・加工品に「ぬかたブランド」マークを表示。周遊マップの作成やYouTube等で発信。

成果

- ◆ 農林水産物の新商品・リニューアル商品の売上は約900万円(平成30年度)から約4,100万円(令和3年度)に急増。
- ◆ かき氷の販売数は約6,300杯(平成30年度)から約2万杯(令和3年度)に増加。



詳細は団体のHPから →

かぶしきがいしゃ
株式会社

ココトモファーム



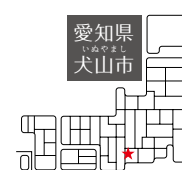
自家製米粉グルテンフリーバウムクーヘン

コミュニティ・地産地消部門

6次産業化

農福連携

地産地消



〒484-0076 愛知県犬山市
大字橋爪字石畑60番地2

tel 0568-54-4717

fax 0568-54-4718

mail shop@cocotomo-farm.jp



書籍の発行

桃太郎マルシェ



農福連携で米を生産

概要

- ◆ 米の生産からバウムクーヘンの製造・販売までを自社で一貫して実施するなど、6次産業化をベースにした農福連携に取り組み、障害がある人もない人も同じ賃金で雇用して所得向上を実現。
- ◆ JAと連携して地元農産物を使ったメニューを提供するほか、名古屋鉄道と連携して犬山市桃太郎神社で「桃太郎マルシェ」を共催。

成果

- ◆ 直営店舗とインターネット販売の売上は約3,200万円(令和2年度)から約2.3億円(令和3年度)に急増。
- ◆ 犬山市シルバー人材センターとのコラボ店舗の運営や、シルバー会員と障がい者の農業を通じた交流の輪の拡大に貢献。



詳細は団体のHPから →



た か ぎ み き お
高木 幹夫

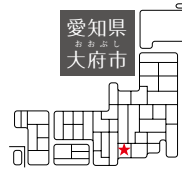


あいち伝統野菜の農業体験

個人部門

地産地消

伝統の継承



〒474-0036 愛知県大府市
月見町 5-33
(あいち在来種保存会)
tel 0562-48-8888
fax 0562-48-8888



小学生向けに教本を無償提供



保育園児による播種作業



- ◆ 昭和50年代、地元の在来タマネギから播種作業を始めて40年以上、種苗会社が扱わない「あいちの伝統野菜」を栽培・播種。
- ◆ 「次世代につなぐ採種作業」をテーマに講座・講演・食イベントを通じて「あいちの伝統野菜」の普及活動を実施。



- ◆ 10坪から始めた荒廃農地の借受は約300坪に増加。愛知県認定の伝統野菜の栽培・採種は21品目35品種に到達。
- ◆ 県内の飲食店をあいちの伝統野菜を「食べられるお店」、「買えるお店」、「学べる教室」に認定する制度を推進。
- ◆ 日本伝統野菜推進協会と連携して小学生向け教本を作成し、地域の小学校に無償で提供。



い ね う ら ち く
伊根浦地区
の う は く す い し ん ち く き よ う ぎ か い
農泊推進地区協議会



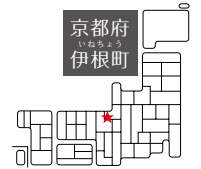
若狭湾に沿って230軒が立ち並ぶ「舟屋」

ビジネス・イノベーション部門

農泊

農村文化体験

地産地消



〒626-0423 京都府与謝郡
伊根町平田 491
(伊根町観光協会内)
tel 0772-32-0277
fax 0772-32-0773



舟屋を改修したモデル宿泊施設



小さな網漁「もんどり」体験



- ◆ 地域内に230軒が立ち並ぶ舟屋を活用した宿泊施設と食事施設を整備。宿泊と食事を別施設で提供する「泊食分離」の実現によって宿泊施設の開業を促進。
- ◆ 町、酒蔵、水産関係者、交通事業者や金融機関等と連携し地域全体での農泊を推進。個人宅での小さな漁業「もんどり」、漁具づくり、刺身づくりなどの体験を提供。



- ◆ 地域内の宿泊施設の売上が約8千万円(平成29年度)から約1.2億円(令和3年度)に増加。
- ◆ 地域内の宿泊施設数は、15軒(平成29年度)から28軒(令和3年度)に増加し、延べ宿泊数は約6千人(平成29年度)から約8千人(令和3年度)に増加。



詳細は団体のHPから

とうばんようすいとちかいらょうく

東播用水土地改良区

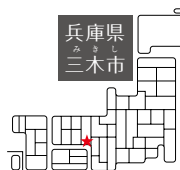


淡山疏水・東播用水親子学習会（円筒分水工）

コミュニティ・地産地消部門

農村環境・景観保全

教育機関との連携

〒673-0512 兵庫県三木市
志染町井上 683

tel 0794-87-0545

fax 0794-87-0547

mail soumu@toban-yosui.jp



伐採した竹の植木鉢にドングリを播種



神戸ワイン専用ぶどうの収穫体験



- ◆ 東播用水の水源を知ってもらうとともに、水源地域への感謝と上下流交流を深める東播用水源流ミニツアーを平成4年から開始。
- ◆ 加えて、水資源環境保全のための里山保全活動、親子学習会、吞吐ダム探検隊、神戸ワイン専用ぶどうの収穫体験等のほか、誰でも参加できる「淡山疏水・東播用水ふれあいバスツアー」を実施。



- ◆ 小学校と連携し、農業水利施設の現地見学を通じて水の大切さ・東播用水の役割や地域の成り立ちについて、子ども達に普及啓発。
- ◆ 「淡山疏水・東播用水未来遺産運動基本計画」を策定し、多様な取組を通じて広く地域内外の住民に対して保全意識の理解を醸成。



詳細は団体のHPから

ありだがわちょう りゅうこくだいがく

有田川町×龍谷大学



農家、龍谷大学、企業、町の交流風景

コミュニティ・地産地消部門

企業との連携

教育機関との連携

若者の活躍

〒643-0153 和歌山県有田郡
有田川町中井原 136-2

tel 0737-22-4506

fax 0737-32-9555

mail n.syokokanko@
town.aridagawa.lg.jp

開発した商品をプレゼンする龍谷大学生



若手農家が就農希望者を受入



- ◆ 有田川町と、ぶどう山椒の産地消滅の危機に立ち向かう町の姿勢に共感した龍谷大学が包括的連携協定を締結。農家、地域住民、企業等を巻き込んで産地振興を実施。
- ◆ 農家の平均年齢が80歳近い地域で学生達が宣伝活動を行い、集めた消費者の声を情報誌にまとめ農家へ配布。企業等と連携して開発・販売した商品の売上の一部は山椒の苗木購入に充当。



- ◆ 市場流通量が少ない花山椒をミシュラン3つ星料亭に販売する等高質販路を獲得し、ぶどう山椒の認知が促進。
- ◆ 町・大学の取り組みに影響を受け、農家が移住を見据えた交流事業や就農希望者の受入に着手し、自発的な産地振興が開始。



えぬびーおーほうじん ばんくあつぷ
NPO 法人 bankup



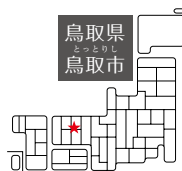
ボランティア活動による鳥取市上地棚田の水路清掃

コミュニティ・地産地消部門

移住・定住

農村環境・景観保全

若者の活躍

〒680-0831 鳥取県鳥取市栄町
627 マーチングビル1階

tel 0857-37-3373

mail info@bankup.jp



大学生の派遣・企画・移住エリア



ボランティア活動によるいのしし電気柵の設置



- ◆ 大学生ボランティアを集落へ派遣した回数は77回(令和3年度)、農村ボランティア派遣のべ人数は408人(令和3年度)。
- ◆ 「農村16きっぷ」、「田舎応援戦隊三徳レンジャー」ともに、食と農林漁業大学生アワードで農林水産大臣賞を受賞。



詳細は団体のHPから →



おおいし こうた
大石 亘太



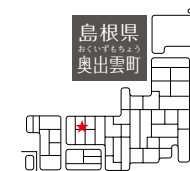
来場者に牛の説明をする大石氏

個人部門

農村文化体験

グリーン化

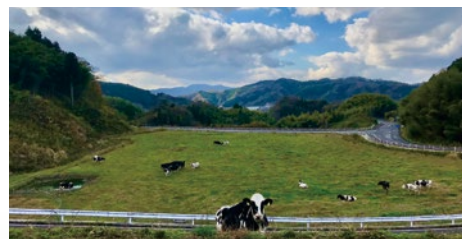
食育・教育

〒699-1434 島根県仁多郡
奥出雲町佐白 529-1
(ダムに見える牧場)

tel 090-2006-5238

fax 050-3383-4678

mail damlookfarm@gmail.com



ダムに見える放牧地からの風景



幼稚園や小学校の遠足受入



- ◆ 牛の放牧が創り出す風景に憧れて牧場として省力的に山を管理し、多目的に利用できるフィールドとして整備するとともに小頭数飼育による適正な量の堆肥を土地に還元。
- ◆ バター作り体験などの観光メニューの提供と地域の保育園、幼稚園及び小学校を受け入れて牧場で「牛のいる風景」を解放。



- ◆ 農業生産額は約2,800万円(平成29年度)から約3,600万円(令和2年度)に増加。
- ◆ バター作り体験等の来場者数は1,036人(平成29年度)から1,533人(令和3年度)にコロナ禍を経ても増加。



詳細は団体のHPから →



せとうち
瀬戸内かきがらアグリ
すいしんきょうぎかい
推進協議会

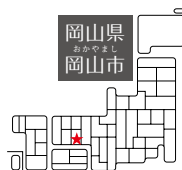


全国で排出される年間の牡蠣殻は約 16 万トン

コミュニティ・地産地消部門

企業との連携

グリーン化



〒700-0826 岡山県岡山市北区
磨屋町 9 番 18-201
(事務局：全国農業協同組合連合会
岡山県本部農産・園芸部)

tel 086-234-6876

fax 086-231-6256



瀬戸内
かきがら
アグリ



牡蠣殻のミネラルで良質な里海米を生産



アマモ再生活動への参画



- ◆ 漁業関係者のみならず地域としての処理課題であった瀬戸内海で水揚げされた牡蠣殻を加工粉碎して、農畜産物の生産・飼育に活用した農業を実施。
- ◆ 牡蠣殻を生産者の手によって資源循環させた農畜産物を生産し「里海米」「里海卵」など生産物に「里海」を冠して販売。



- ◆ 里海米の生産・販売数は、248t (平成 29 年度) から 2,584t (令和 3 年度) に急増加。
- ◆ 里海米生産での牡蠣殻の再利用量は、42t (平成 29 年度) から 434t (令和 3 年度) に増加。



詳細は団体の HP から →

かみもみ のうじょうきょうぎかい
上粉みろく農場協議会



棚田が見渡せるレストラン（棚田テラス「初庵」）

ビジネス・イノベーション部門

6 次産業化

棚田保全

農村環境・景観保全



〒709-3621 岡山県岡山県
久米郡久米南町上粉 1300-1

tel 0868-66-7002

mail kaiami.toshimi@gmail.com



藁アート・龍神（協力：藁アート JAPAN）



農作業を取り入れた人材研修



- ◆ 平成 26 年に上粉自治会員（60 人）を中心に上粉みろく農場協議会を設立。
- ◆ 企業と共同で地元の農産物を活用し棚田が見渡せるレストランを運営し、地元のお母さん達の組織「上粉しあわせ会」の手作りの特産品やオリジナル商品も販売。



- ◆ レストランの売上げが約 300 万円 (平成 29 年度) から約 750 万円 (令和 3 年度) に増加。
- ◆ 荒廃農地を復元して水田に戻した棚田再生面積は、11,000㎡ (平成 30 年度) から 14,000 ㎡ (令和 3 年度) に増加。



詳細は団体の HP から →

かわにしじちれんごうかい

川西自治連合会



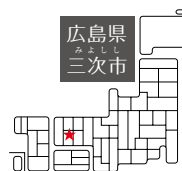
地域と共に開催した郷の駅感謝祭

ビジネス・イノベーション部門

農業

6次産業化

雇用



〒728-0621 広島県三次市
三若町 2651-1 (川西コミュニティ
センター内)

tel 0824-69-2526

mail kawanishi@m-city.jp



農事組合法人の田植え風景



郷の駅産直市

概要

- ◆ 中山間地域である川西地区の荒廃農地の増加の課題に対して農事組合法人と住民出資型の地域運営会社を設立し雇用を創出。
- ◆ 小さな拠点である「株式会社川西郷の駅」での農村型コンビニエンスストアとしての機能のほか、産直市、加工場、軽食堂も併設し地域住民の生活需要に応じた活動を実施。

成果

- ◆ 産直市売上額は約 1,700 万円 (平成 30 年度) から約 1,900 万円 (令和 3 年度) に増加。
- ◆ 郷の駅 (コンビニ、もち加工所、食堂) 雇用人数は 30 人を達成 (令和 3 年)。

たなだ
かみかつ 棚田
みらい きょうぎかい
未来づくり協議会



棚田ウェブ談義所

コミュニティ・地産地消部門

棚田保全

デジタル化

農村環境・景観保全



〒771-4501 徳島県勝浦郡
上勝町大字福原字平間 71-1
(月ヶ谷温泉内)

tel 0885-46-0203

mail kamikatsutanadamirai@gmail.com



全国キッズオンライン交流



美しい村 24 時間オンラインライブ

概要

- ◆ コロナ禍での交流活動の展開としてドラゴンキャッチャーと称して親子を対象にオンラインで檜原の棚田をつなぎアカハライモリの観察会等を実施。
- ◆ コロナ禍でのオンライン & リアル交流の場として棚田ウェブ談義所を開催したほか田野々集落の活動スケジュールや役員情報、町内の防災情報にアクセスできる集落 DX として実証実験を実施。

成果

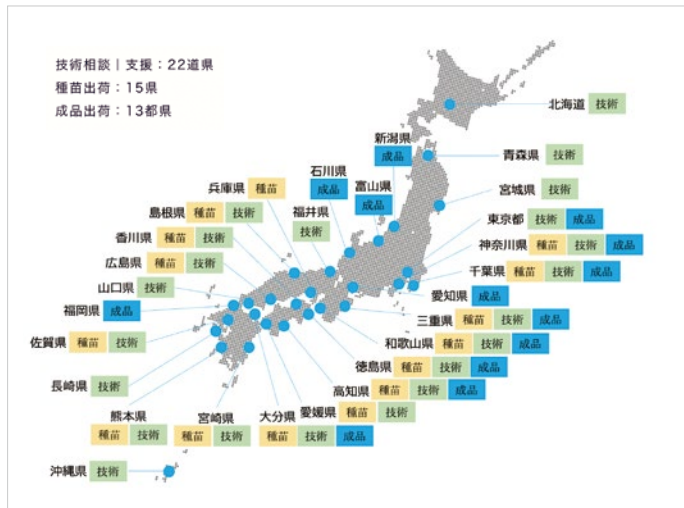
- ◆ オンライン交流を含めた棚田交流活動の交流人口は、340 人 (平成 29 年度) から 15,251 人 (令和 3 年度) に増加。
- ◆ 棚田ウェブ談義所の参加者数は 377 人 (令和 2 年度) から 1,025 人 (令和 3 年度) に増加。コロナ禍においてオンライン交流を通じて町内外の人材との友好関係の構築に貢献。



詳細は団体の HP から

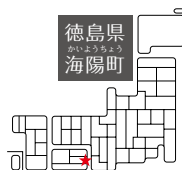


かぶしきかいしゃ
株式会社 リブル



ビジネス・イノベーション部門

- 水産業
- デジタル化



〒775-0512 徳島県海部郡
海陽町穴喰浦字那佐 337-55
tel 0884-70-5888
mail info@reblue-k.com

全国のリブルネットワーク



美しく身の引き締まったシングルシード牡蠣



地元学生の漁場見学を毎年受入



- ◆ 牡蠣不毛の地と言われていた那佐湾での養殖に成功し、データやアプリを活用して養殖技術の見える化 (= スマート養殖) を図り、養殖技術支援と強い種苗の生産の新規産業を創出。
- ◆ IT 技術を駆使した新たな水産業への理解醸成に向けて小学校などの教育現場へ出前授業や漁場案内等を実施。



- ◆ 「あまべ牡蠣」ブランドで全国へ出荷している牡蠣生産量は、2万貝(令和元年度)から10万貝(令和3年度)に増加。
- ◆ 令和3年度には18の地域に技術指導・種苗の提供を行い、牡蠣の生産量拡大に貢献。



詳細は団体のHPから →

かぶしきかいしゃ さんなんえいのうくみあい
株式会社 山南営農組合



地元農産物の加工品(米粉・佃煮・梅干し等)

コミュニティ・地産地消部門

- 6次産業化
- 農泊



〒761-0615 香川県木田郡
三木町小蓑 928-1
tel 090-4501-6949 (体験)
090-9554-9282 (食事)



地元農産物を提供する農村レストラン



オリジナルの袋で販売する「小蓑米」



- ◆ 山の中の小蓑集落で住民は原則全員参加とする営農組合を設立し、地域ブランド米「小蓑(こみの)米」の生産・販売等を実施。
- ◆ 農村カフェの運営に香川大生や地域おこし協力隊が参画。また昔ながらの田舎暮らしが体験できる宿「昭和の宿こみの」で農家民泊を実施。



- ◆ 地域内外からの作業受託面積は、17.4ha(平成29年度)から38ha(令和3年度)に増加。
- ◆ 日々の農村保全活動の継続を通じて、令和3年度に「つなぐ棚田遺産」に認定。



詳細は団体のHPから →



こうちしょうぎょうこうとうがっこう
高知商業高等学校
 しょうひんかいはつ はんばいそくしんぶ
ジビエ商品開発・販売促進部



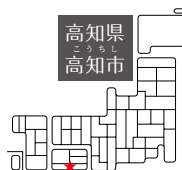
高校生ジビエ・レストラン

コミュニティ・地産地消部門

ジビエ

森林・林業

若者の活躍

〒780-0947 高知県高知市
大谷 6 番地tel 088-844-0267
fax 088-844-3693

クラウドファンディングの立ち上げと返礼品製作作業



森林の現状把握と保護活動



- ◆ 高知市役所レストランでジビエ部の活動として高校生ジビエ・レストランの名で販売を実施。高校生が地元のシカやイノシシ肉を原料として商品開発を行い販路拡大に寄与。
- ◆ クラウドファンディングによって森林の保護活動の資金を調達し返礼品にジビエ商品を活用。県内のシカの食害が著しい地域で植樹、防鹿ネット敷設作業を実施。



- ◆ ジビエ（シカ・イノシシ）の使用量は、20kg（平成29年度）から500kg（令和3年度）に増加。
- ◆ 高校生ジビエ・レストランも含めた販売売上が、約5万円（平成29年度）から約200万円（令和3年度）に増加。



詳細は団体のHPから →



かぶしきがいしゃ しまんと
株式会社 四万十ドラマ



高知県版 HACCP を取得した工場

ビジネス・イノベーション部門

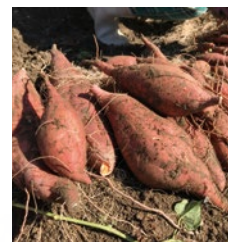
6次産業化

企業との連携

雇用

〒786-0504 高知県高岡郡
四万十町十川 9-5tel 0880-28-5527
fax 0880-28-4875

mail info@shimanto-drama.jp



商品の原料となる人参芋と地域の生産者



テレビで紹介されたお菓子



- ◆ 「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトに地域の6次産業化に取り組み、地域の事業者と連携し芋栽培から商品開発、販路開拓を進め「地域商社」として運営。
- ◆ 「しまんと地栗工場」を建設することにより以前より約5倍の製造体制が整い、高知県版 HACCP 新第3ステージを取得。



- ◆ 芋生産量は4t（平成29年度）から24t（令和3年度）に増加。
- ◆ 芋の契約農家数は5軒（平成29年度）から21軒（令和3年度）に増加。



詳細は団体のHPから →



てんめいかんぎょうほぜんたい
天明環境保全隊

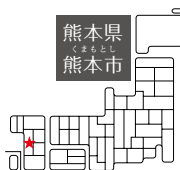


中学生による水源涵養林の下草刈り

コミュニティ・地産地消部門

農村環境・景観保全

教育機関との連携



〒861-4126 熊本県熊本市南区
奥古閑町 1863-5

tel 096-223-2226

fax 096-223-5606

mail tenmei-hozen@rose.plala.or.jp



調整池で生き物調査・酸欠魚の救助



全校で実施する田植え体験



- ◆ 30 集落 14 団体（福祉事業所含む）のべ 3,546 人の隊員で構成。平成 19 年に設立し、様々な農村環境保全活動、文化活動を実施。
- ◆ 天明の魅力・歴史を伝えるため、毎年継続して地域内の小中学校（7 校）で出前講座や生き物調査を実施するほか、環境保全活動やしめ縄、かかし作りなどの伝統文化普及活動を実施。



- ◆ 様々な活動の継続が、地域（人）のネットワークの構築や住民の理解醸成につながり農業後継者を創出。
- ◆ 令和 3 年度の清掃、花植、外来水草・タニシ除去等の保全活動参加者数はのべ約 4,500 人。



詳細は団体の HP から →

しゃかいふくしほうじん

社会福祉法人

おぐにまちしゃかいふくしきょうぎかい
小国町社会福祉協議会



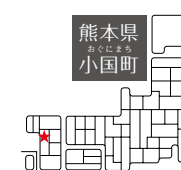
大豆「すずかれん」の収穫

コミュニティ・地産地消部門

6 次産業化

農福連携

グリーン化



〒869-2501 熊本県阿蘇郡
小国町宮原 1530 番地 2

tel 0967-46-5575

fax 0967-46-5615



大豆「すずかれん」の加工製品



平飼い農園 おぐにん卵



- ◆ 協議会が運営する「大豆工房小国のゆめ」では、荒廃農地を活用して大豆等を栽培し、豆腐等に加工販売するほか、農福連携レストラン「天空の豆畑」を経営するなど、障がい者の所得向上にも寄与。
- ◆ アニマルウェルフェアを意識した平飼い養鶏により、栄養価の高い卵を販売。鶏糞等を荒廃農地に散布、大豆等のおからを飼料にするなど、グリーン化に取り組む。



- ◆ 「大豆工房小国のゆめ」の収入は約 688 万円（平成 29 年度）から約 1,725 万円（令和 3 年度）に増加。
- ◆ 地域住民の要望に応え、荒廃農地からの借地面積は 2ha（平成 29 年度）から 9ha（令和 3 年度）に増加。



詳細は団体の HP から →

瀬川 知香

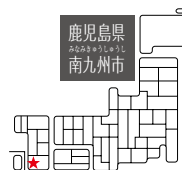


茶畑の中の農泊施設

個人部門

農泊

農村文化体験



〒891-0704 鹿児島県南九州市
 額娃町郡 3512
 (暮らしの宿 福のや、)
 tel 050-3567-7850
 mail chika10013631@yahoo.co.jp



1日1組限定の古民家宿



農業体験プログラム：畑旅

概要

- ◆ 移住後、商店街の中に1棟貸切の宿を運営するほか、茶畑の中の空き家古民家を農泊施設に整備し、地域の農産物・加工商品を販売するとともに観光プログラムを開発。
- ◆ まちづくりに取り組むNPO法人の副理事長や福祉法人の理事を務めつつ、女性活躍を意識して人材育成にも注力。

成果

- ◆ プライベートを育てる一日一組限定の古民家での宿泊者数はコロナ禍でも260人(平成29年度)から300人(令和3年度)に増加。
- ◆ 観光客だけでなく近場の住民のニーズも捉えて、農産加工品の売上は約36万円(平成29年度)から約120万円(令和3年度)に増加。



詳細は団体のHPから →

一般社団法人 E'more 秋名



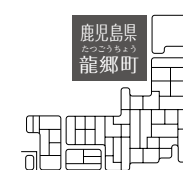
地域語り部による集落歩き体験

コミュニティ・地産地消部門

農村文化体験

地産地消

関係人口の創出



〒894-0333 鹿児島県大島郡龍郷町秋名 1767-1
 tel 0997-58-8842
 mail info@e-akina.com



看板メニューの「おっかんの旬替わり定食」



インターンシップ生による活動報告会後の交流

概要

- ◆ 過疎が進む地域で宿泊事業に取り組むとともに学生インターンを住み込みで受け入れて関係人口を創出。
- ◆ 地域語り部による集落歩きや島の家庭料理を提供する「あらば食堂」の経営などにより、文化を次世代に継承。

成果

- ◆ 地域の主婦が旬の地場産食材で島料理を提供し、若手主婦が調理を補助することで食と暮らしづくりを伝承。
- ◆ コロナ禍を逆に「島民はわざわざ島料理を食べに来ない」という思い込みを覆し、島の暮らしに向き合う姿勢を一層強化。
- ◆ 食堂利用者は年間5千名を超え、清掃も含めて12名の雇用を創出。



詳細は団体のHPから →

かぶしきがいしゃ
株式会社おきなわ うかみ ようさん
沖縄 UKAMI 養蚕

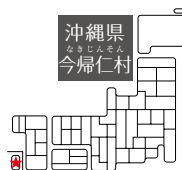
廃校を活用した養蚕の作業場

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

荒廃農地対策

農福連携

〒905-0423 沖縄県国頭郡
今帰仁村字平敷 267 番地 1・D 号

tel 0980-56-3367

mail info@ukami.co.jp



フランスでの自社ブランド商品



荒廃農地を活用したキャッサバ畑 (エリ蚕 (神樹蚕) の餌)



- ◆ 6次産業化により地域の生物資源「エリ蚕 (神樹蚕)」から生産された沖縄シルクをスキンケア商品として加工し、ブランド化してフランスや中国にも進出。
- ◆ 養蚕と飼料生産に廃校と荒廃農地を活用するほか、養蚕施設の整備や飼料生産のための高齢者雇用、蛹と繭の選別のための農福連携など、地域の資源と人材を活用。



- ◆ 商品売上は 400 万円 (令和元年度) から 1,200 万円 (令和3年度) に、荒廃農地の活用は 1.3ha (平成29年度) から 2.4ha (令和3年度) に増加。
- ◆ 絹産業の非繊維分野へ進出に加えて、高齢者の健康長寿と、就労支援事業所の利用による障がい者の活躍と所得向上にも貢献。

詳細は団体の HP から ▶

